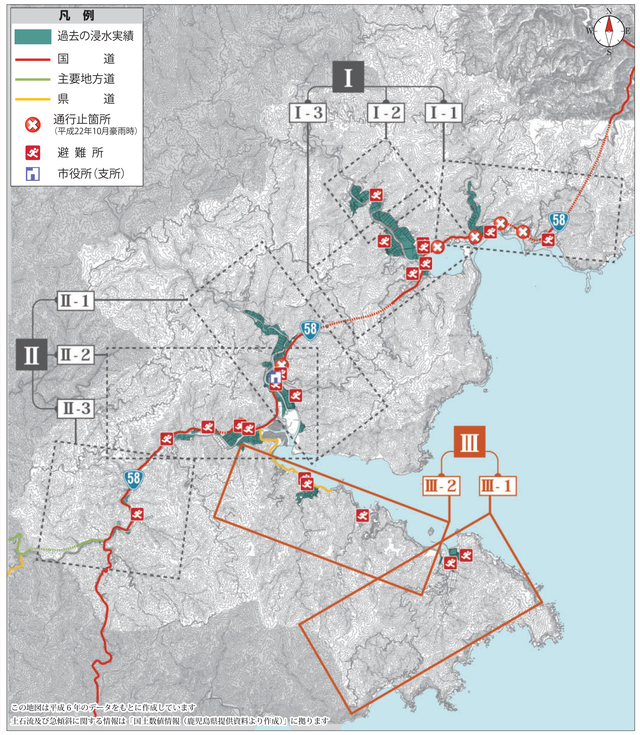
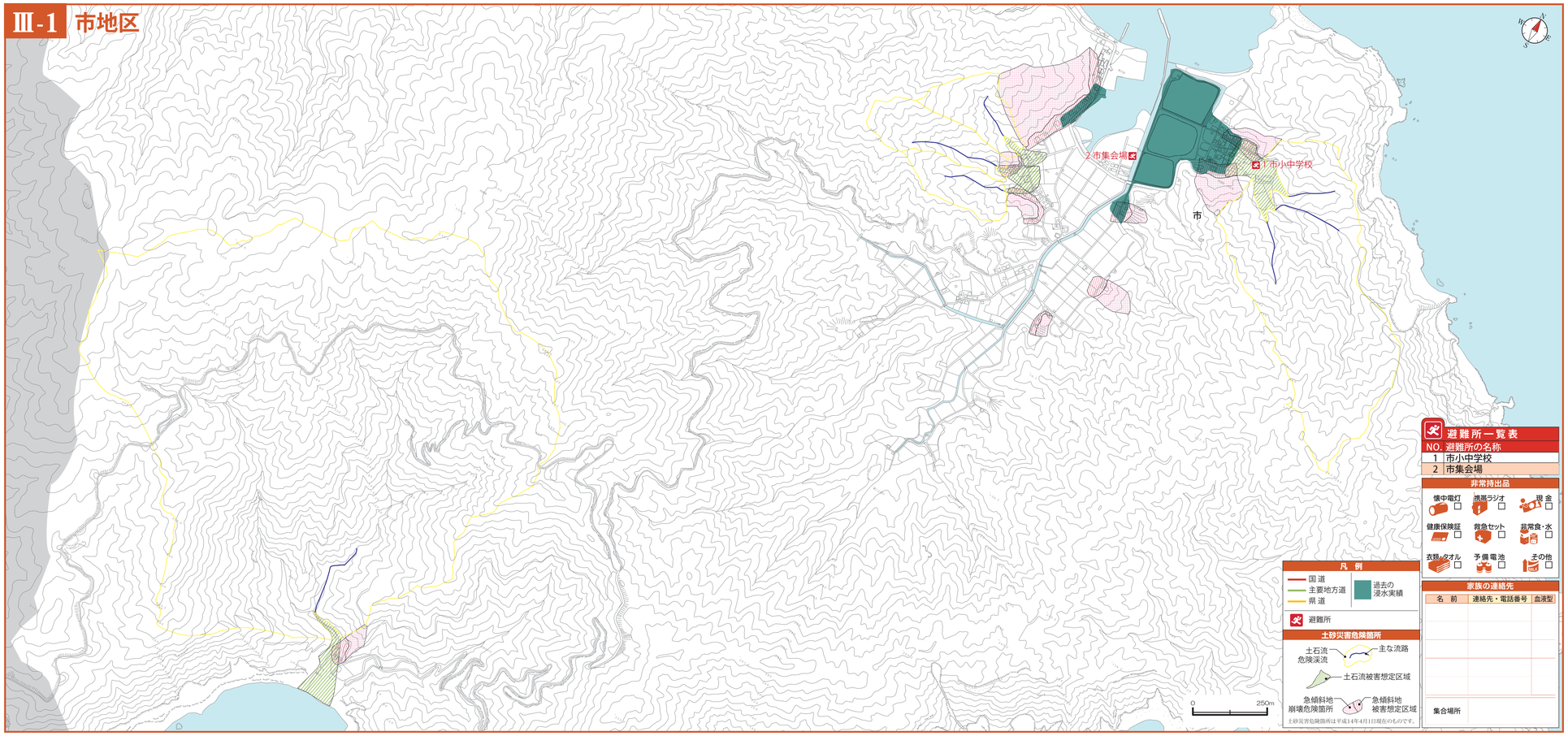
奄美市ハザードマップ

洪水・土砂災害編　～住用地区Ⅲ～

市・山間・戸玉地区



Ⅲ-1　市地区



避難所一覧表

NO.	避難所の名称
1	市小中学校
2	市集会場

非常持出品

懐中電灯 □　携帯ラジオ □　現金 □
健康保険証 □　救急セット □　非常食・水 □
衣類・タオル □　予備電池 □　その他 □

家族の連絡先

名　前	連絡先・電話番号	血液型
集合場所		

凡　例

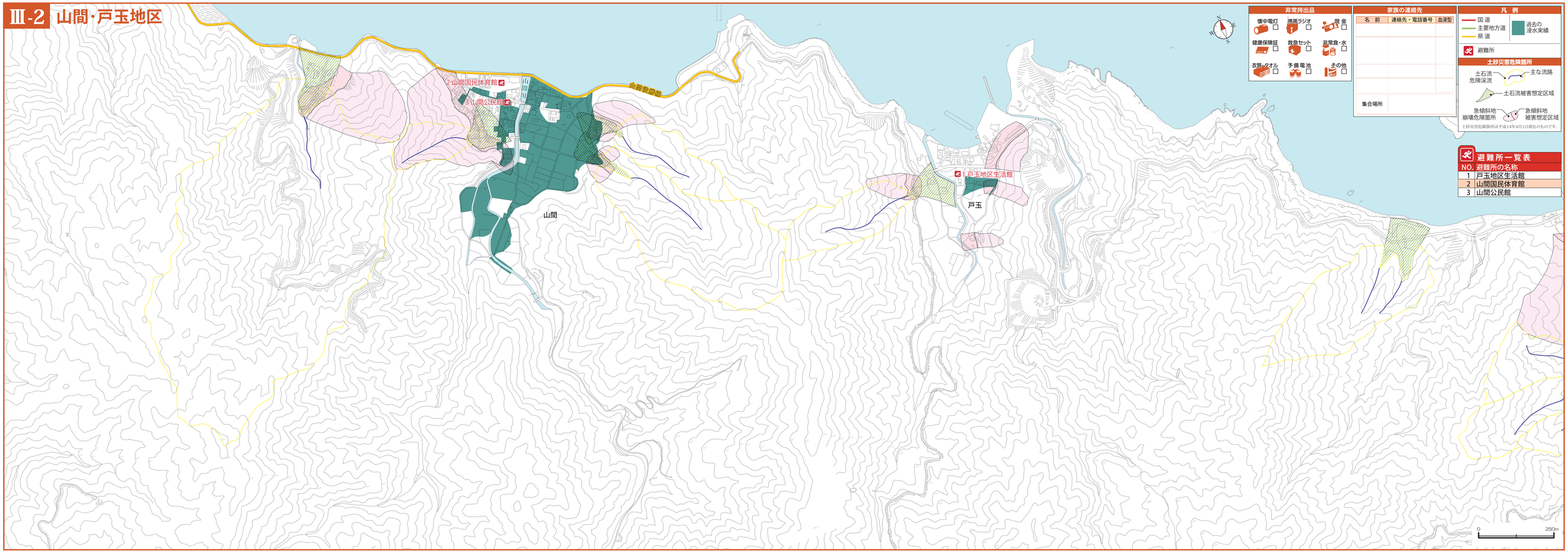
国道
主要地方道
県道
過去の浸水実績
避難所

土砂災害危険箇所

土石流危険渓流
主な流路
土石流被害想定区域
急傾斜地崩壊危険箇所
急傾斜地被害想定区域

土砂災害危険箇所は平成14年4月1日現在のものです。

Ⅲ-2　山間・戸玉地区



非常持出品

懐中電灯 □　携帯ラジオ □　現金 □
健康保険証 □　救急セット □　非常食・水 □
衣類・タオル □　予備電池 □　その他 □

家族の連絡先

名　前	連絡先・電話番号	血液型
集合場所		

凡　例

国道
主要地方道
県道
過去の浸水実績
避難所

土砂災害危険箇所

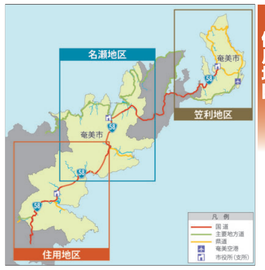
土石流危険渓流
主な流路
土石流被害想定区域
急傾斜地崩壊危険箇所
急傾斜地被害想定区域

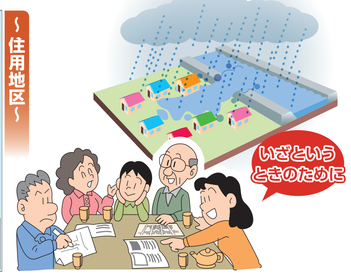
土砂災害危険箇所は平成14年4月1日現在のものです。

避難所一覧表

NO.	避難所の名称
1	戸玉地区生活館
2	山間国民体育館
3	山間公民館

奄美市ハザードマップ





この地図は、はん濫および土砂災害が発生した際に、被害の発生が想定される範囲と、避難所や避難行動に役立つ情報をわかりやすくまとめたものです。

■この地区について…

①浸水範囲の表示について
平成 22 年 10 月の集中豪雨など、過去に発生した洪水によって浸水した範囲を示しています。

②土砂災害危険箇所について
土砂災害による被害のおそれがある箇所を示しています。
（実際の土砂災害の発生や被害の範囲と必ずしも一致するものではありません。土砂災害危険箇所以外の範囲でも土砂災害が発生する恐れがあります。）

このマップを利用して、日頃から洪水や土砂災害に対する備えをしていただき、いざという時に安全な避難行動をしていただきますようお願いします。

緊急時の連絡先

奄美市役所住用総合支所	0997-69-2111
大島地区消防組合住用消防分駐所	0997-69-2119
奄美警察署	0997-53-0110
九州電力奄美営業所	0120-986-808

南海ガス		0997-52-3511
ＮＴＴ	113	0120-444-113（携帯・PHS からは）

最新の気象情報・雨量情報はこちら！

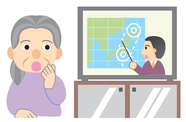
奄美市防災情報	http://www.city.amami.lg.jp/amami11/default.asp
鹿児島県災害・防災気象情報	http://kagoshima.bosai.info/
鹿児島県道路通行規制情報	http://www2.pref.kagoshima.jp/dourokisei/
鹿児島県土砂災害発生予測情報システム河川情報システム	http://www.doboku-bousai.pref.kagoshima.jp/bousai/index_menu.html
気象庁	http://www.jma.go.jp/jma/index.html

目　次

1 わが家の避難所・避難経路
2 避難時の心得
3 非常持出品
4 避難情報について
5 気象情報について
6 土砂災害の種類
7 災害時の伝言サービス

2 避難時の心得

心得その1



テレビ・ラジオなどに注意し、最新の情報を収集しましょう。

心得その2

市役所などの避難の呼び掛けに注意しましょう。

心得その3

必要最小限の荷物で避難しましょう。

心得その4

車での避難はやめましょう。

心得その5

避難する際は、隣近所に声掛けして集団で避難しましょう。

心得その6

高齢の方や子どもなどの避難を手助けしましょう。（早めの避難が大切です。）

心得その7

棒を使い、溝やマンホールに注意して歩きましょう。

心得その8

もしも逃げ遅れたら、近くの高くて頑丈な建物へ避難し、救助を待ちましょう。

3 非常持出品

災害に備えて非常持出品を準備しましょう。確認したら ✓ を入れましょう。

☐ 避難用品

- ☐ ヘルメット
- ☐ 懐中電灯
- ☐ 雨ガッパ
- ☐ 軍手
- ☐ 笛　など

☐ 情報機器

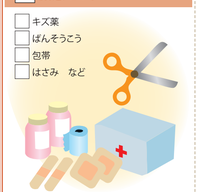
- ☐ 携帯ラジオ
- ☐ 携帯電話
- ☐ 充電器　など

☐ 貴重品

- ☐ 現金
- ☐ 健康保険証
- ☐ 預金通帳
- ☐ 印鑑
- ☐ 家族の写真　など

☐ 救急セット

- ☐ キズ薬
- ☐ ばんそうこう
- ☐ 包帯
- ☐ はさみ　など

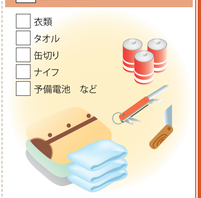


☐ 非常食

- ☐ 水
- ☐ 乾パン
- ☐ 缶詰め　など

☐ 生活用品

- ☐ 衣類
- ☐ タオル
- ☐ 缶切り
- ☐ ナイフ
- ☐ 予備電池　など



その他・・・

家族構成に合わせて

ここで挙げたリストの他にも、ご家族に乳幼児、妊婦、要介護者がいる場合、おむつ、母子手帳や常備薬（薬を常時服用している方は処方せんのコピーもお忘れなく）などが必要です。ご家族で話し合って、必要なものを下の覧に書いてみましょう。

☐	☐	☐
☐	☐	☐
☐	☐	☐
☐	☐	☐
☐	☐	☐

4 避難情報について

市役所からの避難情報に注意しましょう

市役所は、市内で避難の必要性が高まった場合、その状況に応じて避難情報を発表します。情報の意味を理解し、落ち着いて、避難を開始しましょう。隣近所と声を掛け合い、市役所や消防、警察の誘導に従いましょう。

避難情報の種類

避難勧告や避難指示が出ない場合でも危険を感じた場合は、最寄りの避難所などに自主的に避難することも必要です。避難する際は、隣近所の人にも声をかけて、なるべく集団で避難するようにしましょう。

類型	発令時の状況	住民に求める行動
避難準備情報	●人的被害の発生する可能性が高まった状況です。 ●特に避難行動に時間を要する人が避難行動を開始しなければならない段階です。	●非常持出品の用意や家族との連絡など避難準備を開始してください。 ●特に避難行動に時間を要する人は、計画された避難所への避難行動を開始してください。
避難勧告	●人的被害の発生する可能性が明らかに高まった状況です。 ●通常の避難行動ができる人が避難行動を開始しなければならない段階です。	●計画された避難所などへの避難行動を開始してください。 ●避難する際は、隣近所へ声掛けしてください。
避難指示	●前兆現象の発生や、現在の切迫した状況から、人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況です。	●避難勧告などの発令後で避難中の人は確実な避難行動を直ちに完了してください。 ●直ちに避難行動に移るとともに、逃げ遅れた場合は近くの高くて頑丈な建物へ避難してください。

情報伝達の流れ

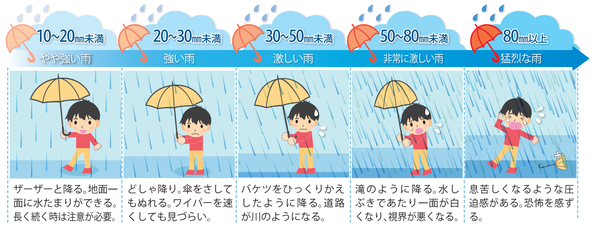
5 気象情報について

注意報・警報の基準

		大雨 / 洪水警報 雨量基準	大雨 / 洪水注意報 雨量基準
笠利町	平坦地	3時間雨量 110mm	3時間雨量 70mm
	平坦地以外	1時間雨量 60mm	1時間雨量 40mm
名瀬		3時間雨量 120mm	3時間雨量 80mm
住用町		1時間雨量 80mm	1時間雨量 50mm

奄美市は警報・注意報発表では「奄美地方北部」に類する。

1時間の総雨量と雨の強さ



ザーザーと降る。地面一面に水たまりができる。長く続く時は注意が必要。

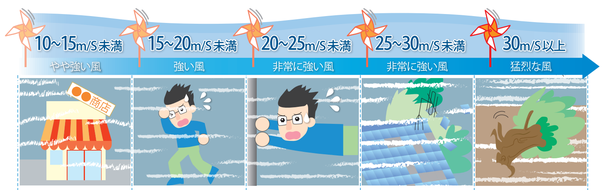
どしゃ降り。傘をさしてもぬれる。ワイパーを速くしても見づらい。

バケツをひっくりかえしたように降る。道路が川のようになる。

滝のように降る。水しぶきであたり一面が白くなり、視界が悪くなる。

息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感ずる。

風速と風の強さ



風に向って歩きにくくなる。傘がさせない。電線が鳴る。取り付けの不完全な看板やトタン板が飛び始める。

風に向って歩けない。転倒する人もでる。小枝が折れる。ビニールハウスが壊れ始める。

しっかりと身体を確保しないと転倒する。鋼製シャッターが壊れ始める。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。

立っていられない。屋外での行動は危険。ブロック塀が壊れ、取り付けの不完全な屋外外装材がはがれ、飛び始める。

立っていられない。屋外での行動は危険。屋根が飛ばされたり、木造住宅の全壊が始まる。

6 土砂災害の種類

大雨や台風、地震が発生したときには、地盤がゆるみ「土石流」や「地すべり」、「がけ崩れ」といった土砂災害を引き起こす可能性があります。土砂災害から身を守るためには、まず自分の家の周りに危険がないか確かめることが重要です。

土石流

谷や斜面に溜まった土・石・砂などが水と一緒に一気に流れ出す現象。

土石流の前兆

- ●山鳴りがする。
- ●川の流れがにごり、流木が混じりはじめる。
- ●雨が降り続いているのに川の水位が下がる。
- ●腐った土のにおいがする。

地すべり

比較的緩やかな斜面で地中の粘土層などがゆっくり動き出す現象。

地すべりの前兆

- ●沢や井戸の水がにごる。
- ●斜面にひび割れができる。
- ●斜面から水がふき出す。
- ●家や擁壁に亀裂が入る。
- ●家や擁壁、樹木や電柱が傾く。

がけ崩れ

地中にしみ込んだ雨水で柔らかくなった土砂が斜面から突然崩れ落ちる現象。

がけ崩れの前兆

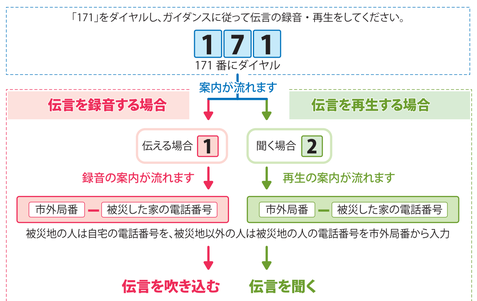
- ●がけに割れ目が見える。
- ●がけから小石がパラパラと落ちてくる。
- ●がけから水が湧き出ている。
- ●がけから木の根が切れる音がする。

7 災害時の伝言サービス

地震、洪水などの大規模な災害時には電話、携帯電話やスマートフォンで利用する「災害用伝言ダイヤル」、「災害用伝言板」が開設されます。

災害用伝言ダイヤル

災害用伝言ダイヤルは、「声の伝言板」（安否情報）の役割をする電話サービスです。被災地内とその他の地域の人々との間で、伝言の録音・再生をすることができます。

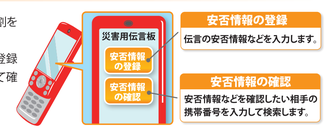


災害用伝言板

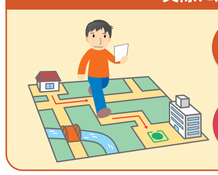
災害用伝言板はメッセージの伝言板（安否情報）の役割をする携帯電話・スマートフォンサービスです。

被災地域に居住または滞在中の方が、自身の状況を登録でき、登録された安否情報はインターネットなどを通じて確認できます。

災害用伝言板へのアクセスにはパケット通信料がかかります。



実際に避難経路を歩いてみましょう



机上で

- ✣自宅や学校、職場などを探してみましょう。
- ✣自分の地区の避難所を見つけてみましょう。
- ✣避難経路を想定してみましょう。

現地で

- ✣マップを片手に、実際の避難経路を歩いて、距離感や時間を知り、途中に危険な箇所が無いか、逃げ込めそうな場所はあるかなどを調べてみましょう。

1 わが家の避難所・避難経路

わが家の防災メモ

あらかじめ記入して家族みんなが分かるところに保管しましょう。

〈避難所〉

〈家族が離ればなれになったときの集合場所〉

名前（家族・知人など）	緊急時の連絡先	電話番号	メモ（血液型など）

避難所、避難経路の確認

自分の地区の避難所はどこなのか、そこへできるだけ川や橋を越えず安全に行くためには、どう行けばいいのかを、地図に描いて確認しましょう。